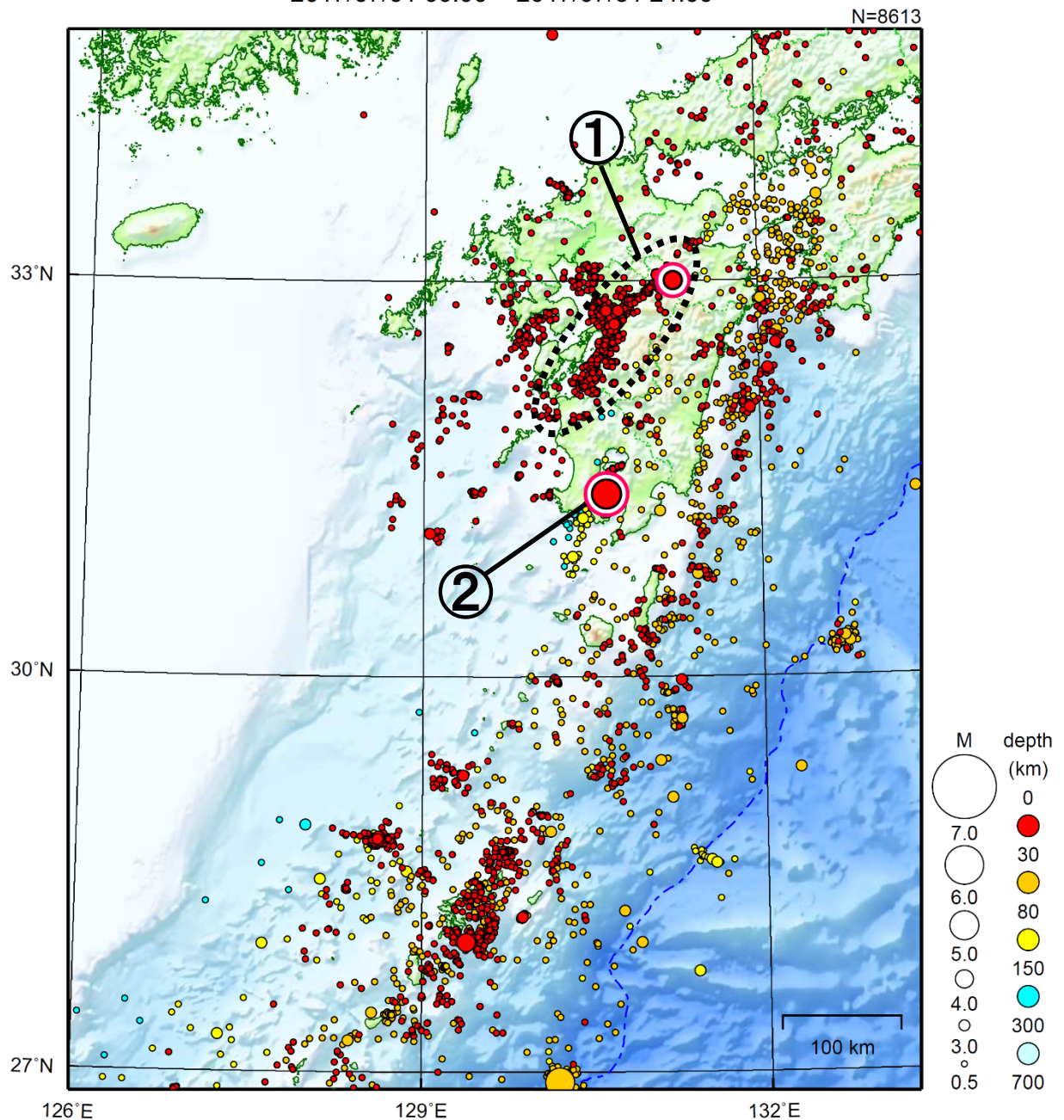


九州地方

2017/07/01 00:00 ~ 2017/07/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOP02v2を使用

- ① 「平成 28 年(2016 年)熊本地震」の活動域では、今期間に震度 5 弱以上を観測する地震が 1 回 (2 日、M4.5) 発生した。
- ② 7 月 11 日に鹿児島湾で M5.3 の地震 (最大震度 5 強) が発生した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

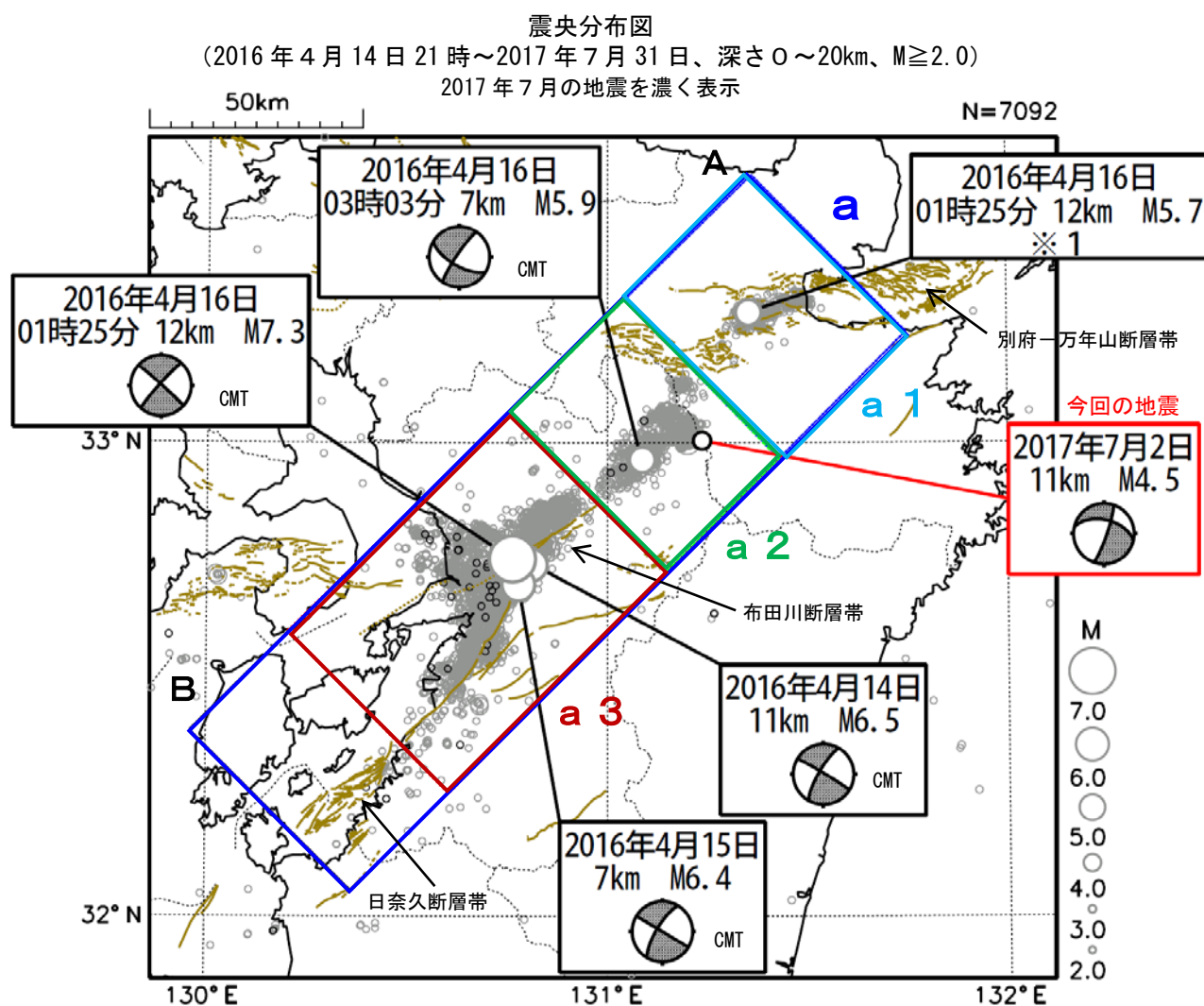
「平成 28 年（2016 年）熊本地震」

7 月 2 日 00 時 58 分に、熊本県阿蘇地方の深さ 11km で M4.5 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。この地震の発震機構は、北西－南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。

熊本県熊本地方（領域 a 3）及び阿蘇地方（領域 a 2）における「平成 28 年（2016 年）熊本地震」の一連の地震活動は、全体として引き続き減衰しつつも継続している。大分県中部（領域 a 1）の活動は低下した。

7 月 1 日から 7 月 31 日までに震度 1 以上を観測した地震は 17 回（最大震度 5 弱：1 回、最大震度 3：1 回、最大震度 2：4 回、最大震度 1：11 回）発生した。

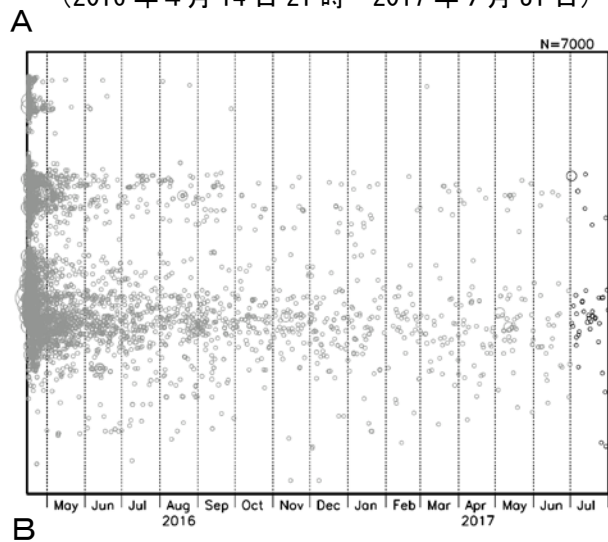
今回の一連の地震活動により、死者 239 人、負傷者 2,780 人、住家全壊 8,671 棟などの被害が生じた（2017 年 7 月 14 日現在、総務省消防庁による）。



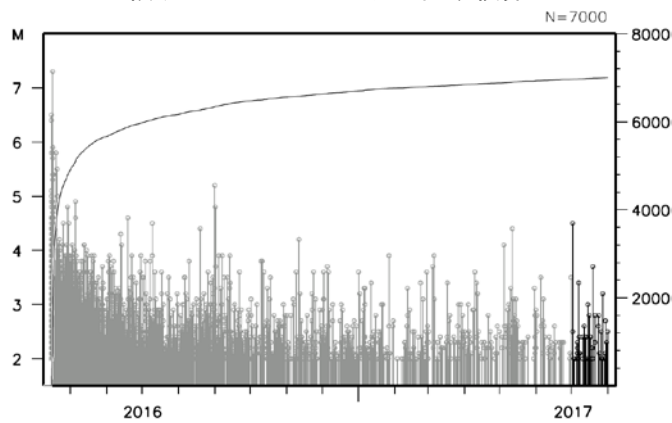
M6.0 以上の地震と各領域で最大規模の地震、7 月に最大震度 4 以上を観測した地震に吹き出しをつけている。

※ 1 M7.3 の地震の発生直後に発生したものであり、M の値は参考値。

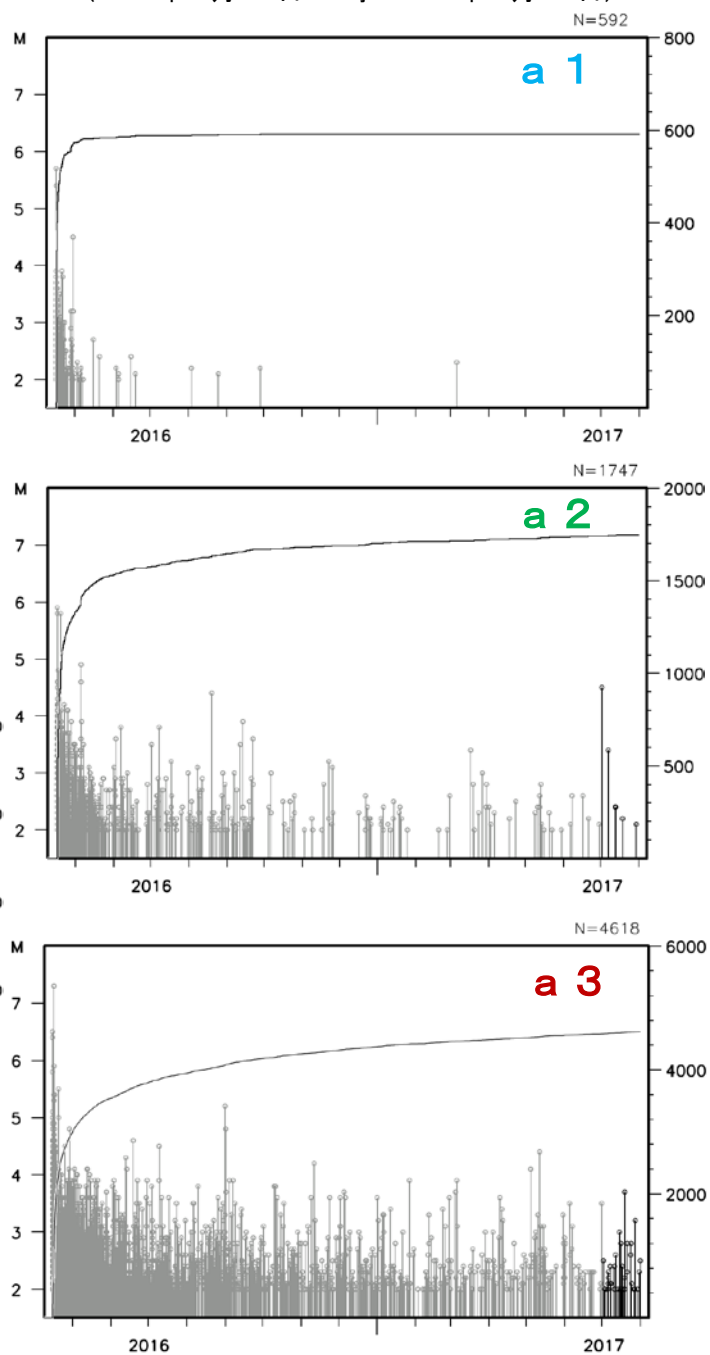
領域 a 内の時空間分布図（A－B 投影）
（2016 年 4 月 14 日 21 時～2017 年 7 月 31 日）



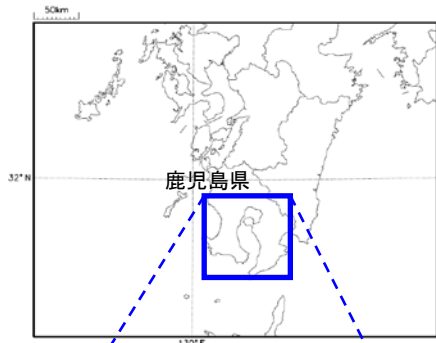
領域 a 内の M－T 図及び回数積算図



領域 a 1、a 2、a 3 内の M－T 図及び回数積算図
（2016 年 4 月 14 日 21 時～2017 年 7 月 31 日）

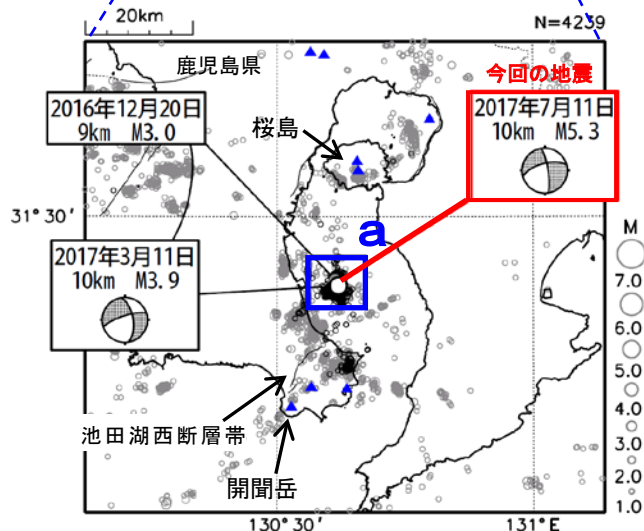


7月11日 鹿児島湾の地震



震央分布図

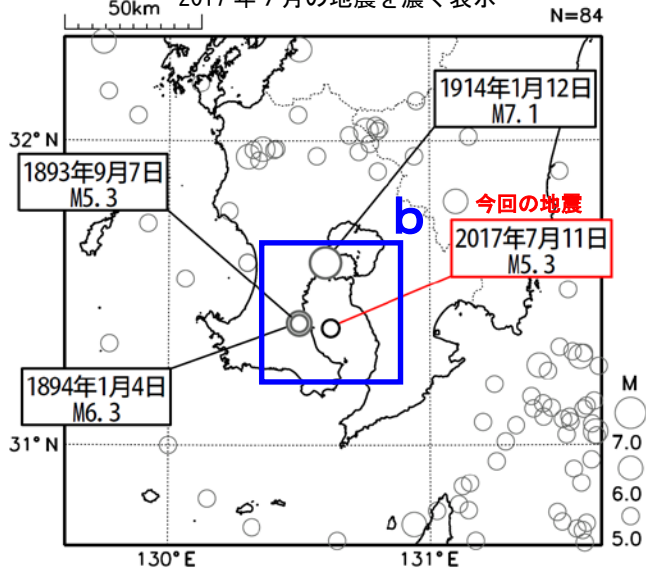
(2000年10月1日～2017年7月31日、
深さ0～20km、 $M \geq 1.0$)
2017年7月の地震を濃く表示



図中の細線は地震調査研究推進本部の
長期評価による活断層を示す

震央分布図

(1885年1月1日～2017年7月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)
2017年7月の地震を濃く表示



2017年7月11日11時56分に鹿児島湾の深さ10kmでM5.3の地震（最大震度5強）が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構は西北西－東南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であった。この地震の発生以降、震源付近（領域a）で地震活動が活発となり、最大震度1以上を観測した地震が8月7日までに28回（震度3：2回、震度2：1回、震度1：25回）発生した。この地震により負傷者1人などの被害が生じた（総務省消防庁による）。

2000年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域a）では2016年12月頃から地震活動がやや活発となっており、2017年3月11日にはM3.9の地震（最大震度3）が発生した。

1885年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域b）では、1893年9月7日にM5.3の地震が発生し、知覧（現在の南九州市知覧町付近）で土蔵破損10、居宅半倒1、倒家2などの被害が生じた。また、1894年1月4日にM6.3の地震が発生し、山崩れ29、道路決壊11などの被害が生じた。1914年1月12日にはM7.1の地震が発生し、鹿児島市内で死者13人、負傷者96人、住家全壊39棟などの被害が生じた（被害はいずれも「日本被害地震総覧」による）。

領域a内のM-T図及び回数積算図

